

やまぐちっ子 学力向上だより

第 6 3 号 H26.12.19

山口県教育庁義務教育課

授業づくり拠点校 研修会

前号に続いて、「授業づくり拠点校研修会」の様子を紹介します。小学校国語と中学校理科の事例です。

柳井市立柳北小学 校の取組

柳井市立柳北小学校の取組

小学校国語の例として、柳井市立柳北小学校の様子を紹介します。

柳北小学校では、教職員が一体となって研修を進めており、特に顕著な取組として、次の2つが挙げられます。

① 解決すべき課題を絞り込んでいる

全国学力・学習状況調査の結果やこれまでの指導の様子から、今年度の研修の内容を、国語科の「話す・聞く」領域に絞り込み、学力向上、指導改善に取り組んでいます。校内研修では、全ての先生方が国語科の授業公開をするという方針で進めています。

② 学力向上推進リーダーを効果的に活用している

事前の指導案検討で助言を求めたり、授業後の研究協議で指導助言を受けたりするなど、授業づくりのスペシャリストとして、学力向上推進リーダーにも、積極的に授業改善にかかわっていただいています。

公開授業の様子

研修会当日は、6年国語科の授業が公開され、話合いの学習の総仕上げとして、「さわやかなあいさつができない」という学級の問題を解決するための話合い活動が行われました。児童を、話合いをするグループと、話合いをチェックするグループとに分け、チェックするグループが話合いの様子をモニタリングするという手法を取り入れていました。児童は、これまで学習してきた「話合いにおいて、聞いたり話したりするときの注意点」を活用しながら、話合いを進めたり、話合いの様子を把握したりしようとしていました。学んだことを具体的に活用する場面を設定した、提案性の高い授業でした。

振り返りの提案

この、モニタリングという手法は、授業の終末部における「振り返り」につながります。例えば、授業中の活動がこれまで学んだことを使った活動になっているかについて、児童生徒がお互いにチェックし合う習慣が身に付けば、様々な学習場面で、「友達が自分の様子をチェックしてくれたのと同じように、自分で自分の様子をチェックする」ことにつながり、自分の学びを自分自身で評価することになります。こうした学習の振り返りについて、ぜひ授業に取り入れていきましょう。



上関町立上関中学校の取組

中学校理科の例として、上関町市上関中学校の公開授業の様子を紹介します。

○板書の工夫

学習の見通しをもてる「めあて」

10/6 ◎ 溶解度

めあて どのような物質が高温の飽和水溶液の温度を下げたとき溶質を取り出すのに適しているかを知る。

実験 水溶液の温度を下げたり、水と蒸発させたりして、水溶液から物質を取り出す。

準備 500mlビーカー、試験管、試験管立て、温度計、ガラス棒、顕微鏡、スライドガラス、ペトリ皿、薬皿、ぞうさん、ろ紙

水5gに物質3gを混ぜる

		塩化ナトリウム	硝酸カリウム	シュウ酸
水	予想	溶けない×	○2人 X 9	○2人 X 8
約20℃	結果	溶けない×	X	X
湯	予想	○5人 X 6人	○10人 X 1人	○1人 X 2人
約50℃	結果	X	○2人 X 1人	X
冷やす	予想	○2人	○2人 X 1人	○2人
約20℃	結果	X	○	○ X 1人

予想の理由

- 塩化ナトリウム 20℃の溶解度は0.8g/100gの水だから溶けすぎない。
- 硝酸カリウムは20℃の水5gに1.5gしか溶けないから溶けすぎない。

水溶液を冷やして取り出せる物質にはどのような特徴があるか。

まとめ 温度が高い時と低い時の溶解度の差が大きい物質ほど、高い温度の飽和水溶液の温度を下げたとき溶質を取り出す方法に適している。

ホワイトボードを並べて掲示

「めあて」に対応した「まとめ」

その時間の学習の見通しを生徒がもてるような「学習のめあて」が設定され、「学習のまとめ」は、めあてに対応したものになっています。そして、本時の学習内容が板書に残されており、課題解決や理解するまでの過程が後からわかるようになっています。こうした構造的な板書が、生徒の主体的な学習の振り返りにつながります。

課題解決の過程では、各グループが話し合った考察をまとめたホワイトボードが一覧できるように掲示されており、相互の思考の共通点や差異を捉えやすくなっています。また、同じ内容の考察でも表現の仕方のバリエーションがあることを価値付け、そのよさをクラス全体に広げていました。



○児童生徒が主体的に観察・実験に取り組むための工夫

児童生徒の観察・実験を充実させるためには、観察・実験を安全かつ適切に行うための確かな技能を身に付けさせることが不可欠です。

今回の授業ではまず、生徒が実験手順をイメージできるように、実際に使用する実験器具や試薬を用いた教師による演示実験が行われました。また、実験用の保護メガネが生徒一人一人に準備されており、全ての生徒が試薬を取り扱い、主体的に実験へと取り組む姿が見られました。

○平成27年度全国学力・学習状況調査の実施要領が発表されましたので、内容について御確認下さい。

○学力定着状況確認問題の結果については、1月末にお届けする予定です。それまで、自己採点をもとに課題となる内容、定着が不十分な内容を絞り込み、学習内容の定着や学び残しの解消に向けた取組を改めてお願いします。